

かかりつけ医等の定着促進に関する市民啓発等のあり方について 本日の論点

1 本日の論点

前回議論では、市民にかかりつけ医等を定着促進させるためには、かかりつけ医等を持つ必要性やメリットなどを伝える必要があるなどの意見を多くいただきました。

かかりつけ医等の定着促進に向けた取組を実効性のあるものにするためには、市民の立場に立ち、市民の思いを理解したうえで、それに沿った具体的な啓発内容や啓発方法を見出すことが重要であると考えます。

そこで、今回は、かかりつけ医等の定着促進が進まない要因について、特に市民の思いを中心に振り返り議論を深めていただきたいと考えます。

(1) 市民目線から想定されるかかりつけ医等の定着促進が進まない要因について

事務局であらかじめ想定した市民の意識を[]内にお示ししております。

※ (医) (歯) (薬) : かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局 (薬剤師) の略です。
各市民意識が、主にどの職種に関連しているかを示しています。

想定① かかりつけ医等を持つことの目的やメリット、必要性がわからないのではないか

【参考】事務局が想定した市民の意識・思い

- (医歯薬) なぜかかりつけ医等を持たないといけないのかわからない。
- (医歯薬) 自分にとってのメリットがわからない。
- (医) 診療所から紹介されて、専門医療機関を受診することが二度手間に感じる。
- (医) 症状によって、自己判断して、大きな病院にかかっている。
- (医) 選定療養費の意図を知らない。
- (薬) 受診機会が少なく、常用している薬もない。

想定② かかりつけ医等の定義や役割、とるべき行動がわからないのではないか

【参考】事務局が想定した市民の意識・思い

- (医歯薬) かかりつけ医等の定義があいまいでわかりづらい。
- (医歯薬) 健康なので、医療機関にかかる機会少ない、それでもかかりつけ医等を決める必要があるのか。
- (医) どの診療科をかかりつけにしたらいいのかわからない。
内科、整形外科、眼科、皮膚科、精神科等を複数科かかっている場合はどこがかかりつけ医になるのか。
- (医) 臓器ごとに、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科等にかかっている場合、どこがかかりつけ医になるのか。
- (医) かかりつけ医は一つに決める必要があるのか。
症状が出た時は、その都度、自分で調べて適当な医療機関を選んでいる。
- (医) かかりつけ医に相談すれば、なんでも判断してもらえるのか。
- (歯) 糖尿病などはかかりつけ歯科医にも伝えた方がいいと聞いたことがあるが、どんな病気の場合に報告すべきなのか。
- (薬) 受診する医療機関ごとに、その付近の薬局に行く方が楽。
- (薬) 医療機関ごとにお薬手帳ができてしまっている。手帳を持ち歩くのが面倒。
- (薬) 病院から処方箋をファックスしてもらって決まった薬局一つに決めている。診療所や歯科医院でもファックスしてくれないものか。

想定③ かかりつけ医等の持ち方、きっかけ、選び方がわからないのでは
ないか

【参考】事務局が想定した市民の意識・思い

- (医歯薬) 一つに決めるとして、どこにしたらいいのか決め方がわからない。
診療所や歯科医院、薬局の情報(専門や特徴など)がわからない。
選ぶ情報がない。
- (医) 標榜されている診療科目の診れる症状の範疇がわからない。
症状が出た際に、何科を受診したらよいか判断が難しい。
その結果、なんでも診れるイメージがある総合病院を受診する。
- (医) 健康診断も職場で受けるので、近くの診療所にかかる機会があまりない。
そのため、いざ医療機関にかかる時に、どこに受診すべきかがわからない。
- (歯) 受診して数か月後に歯科医院から健診の案内ハガキが届くので、決まった
ところにかかっている。
- (薬) かかりつけ薬剤師をどうやって決めたらいいかわからない。
大きな薬局などでは、いつでも、同じ薬剤師に相談できるものなのか。

(2) 具体的な啓発内容や啓発方法について

- ① 目的、意図、必要性、メリットをどのように表現して伝えるべきか
- ② 市民がとるべき行動の具体的なイメージをどう考えるか
- ③ きっかけや選び方をどう伝え、選ぶうえで必要な情報とはどのようなこと
か